

# Narashino International Association



## NIA SQUARE ナイジェリア

Quarterly News

第73号

2006年3月1日

習志野市国際交流協会

Special

魅力いっぱいの国ナイジェリア

Report

シベリア墓参の思い出

Report

上海の最近事情

Report

国際教育の勧め

Report

各部の活動報告

Alabama News

アメリカ文化遺産の宝庫

Who's who

こんにちは・コンニチハ

Challenge

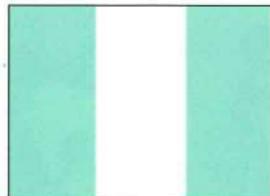
ザ・英文クロスワード・市民訪問団



### みりょく 魅力いっぱいの國

### NIGERIA

エリック トンブソン  
Eric Thompson (千葉市在住)

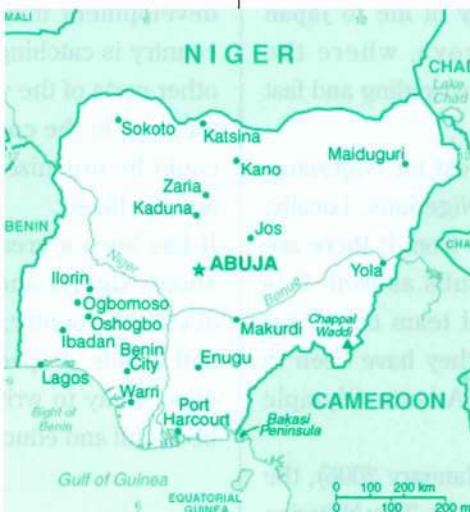


#### SOME BASIC FACTS

Nigeria is the most populous country in Africa, located in the western part of the continent, bordering the Gulf of Guinea and lying between Cameroon, Benin and the Republic of Niger.

The official language is English. Other principal languages are Yoruba, Igbo, Hausa and Fulani. Apart from these, there are more than 300 dialects, but English unites the nation, making communication easy for young and old.

Nigeria covers an area of 923,768 sq km, with a population of 123,337,822. Its most important cities are Abuja, Lagos, Ibadan, Kano, Zaria, Ile Ife and Abeokuta.



of Oyo was founded, under which commodities like timber, cocoa and palm oil replaced the slave trade. In the 19th century, the Fulani leader Usman Dan Fodio brought the Islamic crusade to the country.

The colonial period under the British Empire ended in 1960, when Nigeria achieved its independence, initially as a constitutional monarchy and from 1963, when Nigeria's constitution was adopted, as a republic.

Nigerian leadership then shifted hands between civilians and the military, until, following nearly 16 years of military rule, a new constitution was adopted in 1999, leading to a peaceful transition to the present civilian government led by

Mr. Olusegun Obasanjo.

The present administration promised to rebuild the economy that had been mismanaged in the past. The president is working hard to reform the petroleum-based economy and improve the well being of every individual in the country.

Nigeria is rich in natural resources such as crude oil and minerals, which are less expensive than the ones found in other parts of the world, attracting many foreign investors. There are also agricultural resources like cocoa, rubber and palm tree produce, which were the major export products before crude oil was discovered.

#### HISTORY AND BACKGROUND

Although Nigeria is now operating under a democratic federal constitution system of government, it has a pre-colonial and colonial history.

The pre-colonial history dates back more than 2,000 years. The Nok culture in the north worked on iron and produced sophisticated sculptures. In the following centuries the Hausa Kingdoms and Bornu became important terminals of north-south trade, exchanging ivory and a range of other products, while also being engaged in slave trade. In the 1400s, the Yoruba Kingdom

Nigeria is also blessed with great weather, although rain is sparse in the north.

## CULTURE

The cultural heritage varies widely across the country. Nigerians love dance and music as a way of life. They believe that both keep the soul alive. People perform with a variety of musical instruments as a sign of warm-hearted feelings towards their visitors.

When Nigerians receive important visitors in high positions from other places, dance and music are usually organised to welcome them. If Prime Minister Koizumi, for example, visits Nigeria, it will certainly not be out of place to receive him with such a welcoming, and he might as well be given the opportunity to try out his dancing skills.



Nigeria displayed this culture and way of life to Japan during the 2005 Aichi Expo in Nagoya, where the Japanese audience were treated to waist wriggling and fast dance rhythms.

Soccer is another great subject of interest for Nigerians, being the only sport that really unites Nigerians. Locally, there is a club league system, but aside from it there are lots of Nigerians playing in foreign clubs as well. It is unfortunate, though, that the national team could not make it to this year's World Cup, but they have been to many before and even won the 1996 Atlanta Olympic soccer tournament.

At the very time of writing this article (January 2006), the African Nations Cup is being held in Egypt. The Nigerian team is doing great, and I am sure that back home in Nigeria everybody is watching and enthusiastically supporting their team.

Nigeria is developing very fast, and businesses are growing both in private and public sectors. The IT sector is the fastest growing, and the cellular phone business, for example, is developing at a very high rate. There is at least one cellular phone in every home now, even outnumbering landlines.

There are many religions in Nigeria. Christianity and Islam form the majority, with a share of approximately 45% or more each, while the remaining minority consists

of traditional religions. The majority of Nigerians believe in Almighty God, and this may be the reason why you see so many people in good spirits, even if they are poor, as there is a belief of hope that things will soon be all right. There are lots of schools, private and public, from nursery to university. To every home education is important, and every parent tries as much as possible to send their children to schools.

Education is free, except for private schools.

## REFLECTION

One reason for writing this is to enlighten any Japanese who may still think that people in Africa live with various wild animals, as I was recently asked about by a new colleague of mine. People live like in most advanced countries, except that the stage of



development may be a little bit behind. However, the country is catching up fast with the latest trends found in other parts of the world, and there are lots of people going on tours in the country. If you are interested, such a tour could be organized for you as a group of family, friends and the likes.

It has been a great pleasure and honour for me to write about Nigeria and to let Japanese people know a little about the country, its past and present, its culture, values and beliefs. A special thank you to NIA for giving me the opportunity to write this article, which I hope is going to be useful and educational for anyone who reads it.

Eric Thompson

### 基礎的な事項

ナイジェリアは、アフリカでは最も人口の多い国で、アフリカ大陸の西部に位置し、ギニア湾に面してカムルーン、ベナン、そしてニジェール共和国に隣接しています。公用語は英語で、他の主要な言語はヨルバ (Yoruba)、ラゴ (Lgbo)、ハウサ (Hausa) とフラニイ (Fulani) です。以上の言語とは別に、300以上の方言がありますが、英語が共通語として使われており、若者から老人まで容易にコミュニケーションを図ることができます。ナイジェリアの面積は、92万3,768平方キロで、人口は1億2,333万7,822人です。主要都市は、Abuja、Lagos、Ibadan、

Kano、Zaria、Ile IfeとAbeokutaです。

## 歴史と背景

ナイジェリアは現在、民主制による連合政府によって統治されていますが、植民地化される以前と以後の歴史があります。植民地化される以前の歴史は、2000年以上も前に遡らなければなりません。北部のノック (Nok) 文化では、鉄製の道具が使われ、洗練された彫刻も制作されていました。それ以後の世紀は、ホウサ (Hause) 王朝でブルヌ (Brnu) が南北交易の主要な中継拠点となり、象牙と他の産物との交換が行われていた一方で、奴隸貿易も実施されていました。

1400年代にオヨ (Oyo) のヨルバ (Yoruba) 王朝が創立され、その統治下では木材、ココア、パーム油のような日用品が奴隸貿易に代替されるようになりました。19世紀には、フラニ (Fulani) の指導者であったウサマ・ダン・フェディオ (Usman Dan Fodio) がイスラム教の擁護運動をこの国にもたらしました。

大英帝国の支配下による植民地の時代は1960年に終わり、ナイジェリアは当初、立憲君主国家として独立を達成し、1963年から共和国としてナイジェリア憲法が公布されました。その後、国家指導者は文民と軍人の間を推移し、16年間の軍事政権を経た後の1999年に新憲法が公布され、これによってオルセガン・オバサンジョ (Olusegun Obasanjo) 氏が率いる現在の文民政府に平和的に移行していきました。

現在の政府は、過去の誤った手法によって運営された経済の再建を公約しました。大統領は石油を基礎とした経済運営を改革し、国民一人ひとりの福利向上を図れるよう尽力しています。ナイジェリアは、原油や鉄鉱石など天然資源が豊富で、他の地域ほど採掘に費用がかからないため、外国の採掘者たちを惹きつけています。ココア、ラバー、ヤシの木のような農業資源も産出され、原油が発見される以前には主要な輸出品でした。ナイジェリアは、北部では雨が少ないものの、天候には非常に恵まれています。

## 文化

文化的な遺産は、国の幅広い地域において多種多様なものがあります。ナイジェリア人は、踊りや音楽を生活の一部として愛好しています。その中には魂が宿っていると信じています。人々は来訪者に対して、暖かな心情の発露として多様な楽器で演奏をします。

ナイジェリア人は、他の地域から高い地位にある重要な来訪者を迎える時、通常、歓迎の意をこめて踊りと音楽でもてなします。例えば、小泉首相がナイジェリアに訪問した場合、ある意味では他の場所ではないような歓迎を受け、彼の踊りを披露するような機会が与えられるでしょう。

ナイジェリアは、日本において2005年に名古屋で開催された愛知万博で、その文化と生活様式を展示しました。

サッカーはナイジェリアにおいて、もう一つの重要な関心事で、真にナイジェリア人が共有できる唯一のスポーツとなっています。地域的にはクラブ・リーグの組織がありますが、他方で多くのナイジェリア人が海外のサッカー・クラブで活躍しています。しかし、不幸なことに、ワールド・カップには出場できませんでしたが、過去には1996年のアトランタ・オリンピックの公式選では数多くの勝利を収めました。

私がこの原稿を書いていますにこの時(2006年1月)にアフリカ・カップがエジプトで開催されています。ナイジェリア・チームは偉大であり、ナイジェリアのすべての国民がこのチームを応援して、観戦し熱狂している中で帰還することを確信しています。

ナイジェリアは急速に発展を遂げており、ビジネスの分野では私的、公的セクターの双方で成長を続けています。IT分野は急速に成長しており、例えば携帯電話ビジネスは非常に高率で発展をしています。圏外となる地域はあるものの、現在、各家庭に最低1台は携帯電話がある状況です。

ナイジェリアには数多くの宗教があります。大多数がキリスト教徒かイスラム教徒で、それぞれが45%以上を占めていますが、その一方で既存の少数派は伝統的な宗教で構成されています。ナイジェリア人の大多数は、全能の神を信じており、その理由は多くの人々が良い精神を持っており、貧困な人たちでも物事はすみやかに良い方向に推移していくという希望を抱いているからでしょう。

保育所から大学まで、公立と私立を問わず数多くの学校があります。全家庭において教育は重視されており、両親はできるだけ子供たちを学校に通わせようと努めています。教育費は私立を除いて無料です。

## 熟考

私がこの原稿を書いた理由の一つは、最近知り合った仲間に質問されたのですが、日本人はアフリカでは今でも人々が動物とともに共棲していると考えている人が少なからずいて、それに対して正しい事実を啓蒙したかったです。発展の段階としては少し遅れているかもしれませんのが、人々は先進国と同様の生活をしています。しかし、世界において他の部分で遅れている局面を持ちながら、急速に追い付きつつあり、旅行に訪れる人も増加しています。もし、あなたが興味を持たれるならば、家族や友人、その他の人たちと一緒にツアーワークを企画されることを望みます。

私にとって、ナイジェリアについて書くこと、そして日本の人々にこの国の過去と現在、文化、価値観と信仰について少しでも知ってもらえることは、大いなる喜びであり誇りであります。このようなテーマを書く機会を私に与えてくれた習志野市国際交流協会に最大限の感謝を申し上げるとともに、これを読んだ方々にとって有益で何かを学んで頂ければ幸いです。

読者の皆さんには、新聞やテレビの報道を通してご存知と思いますが、昨年は、戦後60年目の年でした。私は、この節目の年にどうしてもしておきたいことがあります。それはたくさんの戦友が眠っているシベリアに墓参に行くことでした。

丁度この年、全国強制抑留者協会からシベリア慰霊訪問並びに埋葬調査隊（沿海地方班、ハバロフスク・ホール班、コムソモリスク班、アムール班、チタ班、バイカル班、イルクーツク班、クラスノヤルスク班）の募集がありました。参加者は全部で69名、私もアムール班に参加させてもらいました。

8月23日、アムール班は、新潟空港待合室にて各地から参加した8名の方とまず初顔合せをし、出発を待ちます。待合室には、ハバロフスク行きを待つロシア人も大勢おり、子どもたちが上手な日本語で私たちに話しかけてきます。

日本の多くの人々は、ロシアは遠い国と思っているようですが、新潟からハバロフスクまでは、空路だと2時間の近さなのです。

私たちは、夕方出発し、その日はハバロフスクのホテルに宿泊。いよいよ明日からの墓参りと収容所の訪問に備えます。

翌日（24日）私たちは、まずハバロフスク周辺の2ヶ所の墓地を訪問し、全員で雑草取りや掃除をし、お参りを済ませました。そしてその足で、ハバロフスク駅に向かい、夜行寝台車に乗車。シベリア奥地プラゴベシェンスクと向います。シベリア鉄道の沿線の光景は、ただただ広大な草原がひろがり、その光景は、何時間も続くのです。この地は、寒冷地のため多くは凍土で被われており、表面の浅い土には、草しか生えない所が多いです。この自然条件は、奥地に行けばいくほど過酷になり、人間の生活に立ち塞がってきます。

3日目（25日）11時近くにプラゴベチンスクに到着。この街の南側には、アムール河がゆったり流れ、対岸には中国の雄大な光景が見えます。



アムール河

私たちは、昼食後早速プラゴベシェンスク周辺の墓参に行きました。ここには149名の日本人墓地がありましたが、多くは草に埋もれ、訪れる人もないようでした。墓参後、当時の収容所跡を訪れましたが、一部は今でもロシア人が使用しており、何とも言えない複雑な気持になりました。

4日目（26日）いよいよバスでさらに奥のザビチンスク（ザビータヤ）に入ります。先ずロマン市長と面会し、248名の日本人が祭られているお墓に行きます。ここでは、どのお墓も綺麗に清掃されており、心が安らぎます。早速用意した花を供え、全員で黙祷、弔辞を読み上げ墓参を終わります。その後3人の方が眠るリョーヌイボルの墓地を訪れ、冥福を祈ります。

その後、今回の仲間のAさんのお兄さんが亡くなられた収容所病院とその跡の確認調査と聞き込み活動を行いました。

時間がかなり経っているため、調査は大変でしたが付近の長老や地区長等から話を聞き、やっとのことで亡くなった場所が確認出来たのです。その場で全員が線香をあげ冥福を祈りましたが、Aさんの気持を考えるとかける言葉もありませんでした。

この日は、さらにバスで移動し、ライチヒンスク（ライチハ）へ移動します。この街は、今回の墓参旅行の最大の目的地です。なぜならば、私は60年前この地の収容所で多くの戦友と助け合いながら苦しい生活を乗り越えてきたのです。それと同時に、たくさんの仲間も失った地もあります。私には、ライチヒンスクは、絶対に忘れることの出来ない地なのです。

27日、朝から収容所跡ライチヒンスクの訪問と埋葬地への墓参が始まりました。



ライチヒンスクの日本人墓地にて

ここには現在316名の日本人が埋葬されており、その周辺には、古びた収容所の建物がまだ点在し、あの当時の面影が随所に残されています。

私は、この地に立ち、あらためてあの時の苦しく、そして悲しい出来事が思い出したのです。

それは、すべてを文字に表すことが出来ないほどさまじいものでした。でも二度とこのような悲しいことがこの地球上に起こらないためにも紙面が許す範囲内での当時の思い出を記してみたいと思うのです。

皆さんは、学校でも勉強したと思いますが、太平洋戦争が終戦する間近の昭和20年8月9日、旧ソビエト連邦が参戦しました。そして、旧ソビエト連邦は、終戦後旧満州（現在中国東北区）や樺太・千島にいた約57万人あまりの日本の軍人等をシベリア方面に強制抑留しています。私もその当時旧満州にシベリアに抑留され、この地ライチハ収容所に収容されたのです。

この地は、自然条件が厳しく特に冬は、零下40度を越え、地下は、1メートル20センチあまりまで完全に凍りついてしまいます。

私たちは、毎日ライチハ収容所から近くの炭鉱に通い、石炭堀りをさせられました。零下40度の過酷な自然条件の下での作業のため、石炭を燃やして手を炙りながら作業をするのですが、よく監視兵に見つかり、折角焚いた火を足だけとばされた上、怒鳴られもしました。

また毎日出される食事が、今の人では、考えられないほど粗食でした。

昼食は、黒パン1枚にドラム缶に水を入れて朝食に出たニシンを少し入れたスープが、缶詰の缶に一杯。でも黒パンは、朝食が足りないので、よく翌朝にまわしました。毎日こんな状態が続くのですから、栄養失調や病気になってしまふ者が続出しました。

毎日石炭堀が終わると、帰りに宿舎の暖房のため、石炭を抱えながら帰るのですが、その途中で何人の仲間が倒れ病院に担ぎ込まれました。しかもその殆どの友人は、入院して3日もたたないうちに亡くなりました。それほどぎりぎりまで、みんな頑張っていたのです。

私も寒い冬に倒れすぐに、病院に行きました。その後毎日仕事が終わると診察に行き続けました。その後1ヶ月ほど入院しましたが、運が良かったのでしょうか、何とか命は助かりました。

今回の訪問では、この炭鉱と病院に行って見ました。しかし残念なことに、時間の関係で当時の場所までは行けませんでした。しかし、その近くの炭鉱を見学したところ、なんと大型機械を使い露天掘りをしていたのです。時代の流れを感じる光景でした。

病院の方は、まだ建物の一部が残されていました。し

かもそれらが利用されているのがわかり驚きと同時になんともいえない気持になりました。



露天掘りをしている炭鉱

私の特につらい思いでの一つに、屍衛兵に立たされたある冬の日の出来事があります。

収容所内でも、過労や栄養失調、病気等で毎日多くの仲間が、愛する妻や子ども達、両親に再会出来ずに死んでいきました。

亡くなった方は、裸にされ、両手を組んで収容所の一箇所に寝かされました。冬はあまりの寒さにその死体がカチカチに凍ってしまうのです。その日も30体ほどの亡骸が並んでいたと思います。私は、その日もそれらを守る任務についていましたが、石炭ストーブの近くの一体が、熱のせいか、突然組んでいた両手を開いたのです。私たちは、成仏してもらいたいと思い、タオルを切ってその両手を組ませ、縛りました。その時の悲しみとやりきれなさは、今でも忘ることは出来ません。

この日は2ヶ所墓地にも参りましたが、そのひとつゼルビノ墓地では316名が埋葬されていました。この中には、私たちが埋葬した友人の墓も多くあり、今回信心をもってお参り出来たことは、本当に良かったと思っています。

この日は、1日駆けずり回りましたが、何処に行っても悲しい思い出や辛い思い出が多く、やりきれない気持になりました。しかし、その反面多くの友人に会え、こころの安らぎも感じここまでやってきて本当に良かったと思った次第です。

この墓参旅行は、その後プラゴベチンスク駅からシベリア鉄道に乗り、ハバロフスクにもどり、29日に無事帰国しました。

今回の墓参旅行を通して強く感じたことは、未だに日本人の同胞がシベリアの地に眠っており親族の迎えを待っているということです。一日も早くこれらの遺骨を政府の手で引き揚げ、千鳥が渕戰没者墓苑に納骨できることを願ってやみません。

## 1. 商業の街、上海

上海市は、揚子江河口に形成された位置にあり、唐代以降貿易港として発展しました。以後、お茶、木綿、大豆、穀物等を中心に海外貿易港として繁栄してきました。

現在は、商業を中心に様々な分野で中国第一の都市の座を築いてきており、浦東新区の国家プロジェクトの指定以後は、家電、通信、自動車、化学工業、繊維産業を中心経済の発展は、急激に加速され、日本から多くの企業が進出しています。人口1300万人を超す上海市は、首都北京をしのぐ成長を続けています。

## 2. ファッションは、上海から！

上海地区には、現在多くの海外の繊維メーカーが進出し、現地生産をしており、豊富な品ぞろえで値段も日本に比較し安く購入出来ます。このため中国におけるファッションは、上海からと囁かれており、特に若い中国の女性にとっては、上海に行けば世界の流行の最先端をいく品揃えが、出来ると、あこがれの街になっています。

さらに化粧品、下着、靴、めがね等も日本をはじめ世界のメーカーが多数進出し、品質、機能、流行に敏感な対応をしており、むしろ世界のファッションは、上海からという心意気で動いているように感じられます。

## 3. 街の様子

海外から訪れる観光客が、必ず立ち寄ると言われているのが「豫園」です。豫園は、1559年から18年間にわたって造られた明代の庭園です。その後幾多の変遷があり新中国成立後修復が始まり、現在の姿に整備されました。造作は極めて多彩で大小の池や渓流に影を落とす楼閣の数々、大変に美しい名園です。是非訪ねて下さい。

また、市内を流れる黄浦江に沿った一角に外灘があります。異国情緒の雰囲気のある風景、江沿いの黄浦江園には、常に国内外からの観光客、若い恋人等が行きかい、明るい雰囲気は楽しいものです。

顔をあげ、前方をみると高さ786mの東方明珠電視塔があります。1995年5月テレビ電波の発射を開始したテレビ塔で



東方明珠電視塔

す。この街にマッチした光景です。

## 4. 交通事情

上海は、道が狭く、信号もなく、多くの道路で乗用車、トラック、タクシー、自転車それに歩行者と入り乱れており、朝晩のラッシュアワーは、大変な混雑ぶりです。少しずつではありますが、整備は進んでいます。今しばらくは大変かと思われます。

車道は右側通行です。雨の日の赤・緑、黄色等カラフルな合羽を着ての自転車通勤、通学は、道路沿いの建物から見ていて実に壮観です。この光景は四川省成都でも同様でした。

車道の中心部は、乗用車その横をトロリーバスやタクシー歩道に近い所を自転車と巧みに区分して通行しています。市内には、地下鉄が、南北に走る1号線、東西に走る2号線もあり、料金も安く5分前後の間隔で運行されています。

## 5. 健康問題

上海の朝の公園は、太極拳や社交ダンスをしている人たちで、常に一杯です。日本でも太極拳を楽しんでいる人たちが増えてきていますが、健康で長生きする秘訣は、全身運動で無理なくしかも継続的に行なうことが必要です。また、ダンスといえば西洋的な感覚をもつ人が多いと思いますが、中国では老いも若きも社交ダンスに参加する人たちであふれています。

## 6. お茶と漢方薬

### お茶

中国には200種類を越えるお茶があります。日本で有名になっている烏龍茶、ジャスミン茶、緑茶、紅茶等があります。お茶のルーツは、約3000年前周時代に薬草として用いられたことがはじまりといわれています。

唐代には喫茶の方式やその心を説き、一種のお茶の文化として成立しました。お茶の産地は、中国全土に広く分布していますが、摘まれたお茶の加工も広い地域に渡っています。上海でも多くのお茶が取り扱われています。

### 漢方薬

中国では、漢方薬を取り扱っている店が、大変多くあります。漢方薬というと常に西洋医薬と比較されますが、それぞれに良さもあり、伝統があります。

漢方薬の効能としては、効果はゆっくりだが副作用が無いのが特徴と言われています。針や灸を組み合わせた治療方法もあり、海外からの観光客も深い関心を示しており、実際に現地で治療を受ける例も多いようです。

健康問題は、常に人間の深い関心事です。

小学生や中学生を始めとする若い皆さんには、将来へ様々な夢や希望があると思いますが、留学などの国際体験もその一つと言えましょう。昔は、ごく一握りのエリートだけが、留学することができたのですが、現在は、様々な人々にその機会が広がっています。例えば、語学プログラムやホームステイによる外国語の習得や異文化体験、音楽・絵画・陶芸など芸術を学ぶための留学、スポーツ留学など、人により様々ですが、目的は何であれ、外団の人々に触れ、異文化を体験することは、自分の専門性を深め、視野を広げ、心を豊かにするだけでなく、自らも日本で受けた教育や日本で培った文化などによって海外の人々に様々な影響を与えることができるのです。



The University of Alabama HPの学生と筆者（中央奥）の講義前の討論

高等教育の多様化が進んだアメリカの場合、州立大学は、数多くの一般州民を教育することを目的として設立されたものが多いのですが、エリート教育を目的としたIvy League（アイヴィー・リーグ）に属する私立の名門大学（歴史が古く、建物にツタ（Ivy）が密生していることからこう呼ばれる）に対抗し、優秀な学生を確保し、英才教育を施すため、学内にHonors College（HC）やHonors Program（HP）を設け、選ばれた学生に対して、英才教育を行なっており、そのうち名門の州・公立大学はPublic Ivies（パブリック・アイヴィーズ）と呼ばれています。

Public Iviesの一つであるペンシルバニア州立大学（Penn State）では、The Schreyer Honors College がこれに相当し、同Collegeには日本人学生もいます。Penn StateのGraham Spanier学長は、この全学レベルでの英才教育にも力を入れておられ、同学の最優秀卒業生 Distinguished Alumnus（DA）の中には、私立であるIvy Leagueの大学の教授もおられます。さまざまな形でHCを支援しています。

アラバマ大学のHPはThe University HP（全学英才教育）、The Computer-based HP（コンピューターを基礎とした英才教育）、International HP（国際英才教育）のプログラムで構成されていますが、学生は、自分に合ったHPに応募し、選ばれた学生は、自分の専門分野の科目を取りつつ、HPのカリキュラムもこなすことになるので幅広い教養を身につけることになります。

Ivy Leagueの大学の多くは、実用的な工学研究に余り注力していないせいか公表されている工学部の全米ランクがあまり高くありませんが、これは、工学教育でも学生がコミュニケーション能力を身につけ、将来の企業・大学・政府等におけるリーダーとして育つことを重視している為で、州立大学のHPも同様の狙いを持っています。



講義後（Dr.Hiroshi Honda（左）Professor Cathy Randall（右））

筆者は、2001年9月14日にアラバマ大学HPの秋学期の第1回の講義に、プログラムディレクターで同学DAのCathy Randall教授に招かれ、講義を行う機会を得ました。

講義の前は、学生と様々な話題について気楽に語り合い、その後「学生や若いプロフェッショナルにとって日本留学と日本で働くことが意味するもの：チャレンジと機会」と題する講義に入りましたが、学生達は熱心に聞き入り、講義途中での質問もありました。講義の後の質疑応答では、日本の大学へ留学する機会や、日本との文化の違いなどについて質問を受けました。

これらの英才教育を受けるには、相当な英語力が必要となり、最初からHCやHP、さらに私立の名門大学に受け入れられるのは困難かも知れませんが、最初は無理せずに、語学プログラムや自分に興味のある分野などから入っていく良いのです。若い皆さんには、今後国際教育を受ける機会が増えるものだと思いますが、その時には、是非、積極的にチャレンジし、努力を継続され、所期の目的を達成される事を願ってやみません。

# Report / N.I.A. 今年度の活動報告

今年度も多くの会員の皆様のご協力により下記のような幅広い活動が出来ました。来年度も是非多くの方々にご支援いただき、積極的な国際交流活動を展開していきたいと考えています。ご協力よろしくお願ひいたします。

## 皆さん、たくさんの協力ありがとうございます。姉妹都市交流部会

今年度は、姉妹都市関係の活動に対し、皆さんからたくさんのご協力をいただきありがとうございました。2005年度タスカルーサ市さくら祭りには、876句の俳句を応募いただきました。

アラバマ大学ジャパン・プログラムとタスカルーサ市姉妹都市委員会から応募の小中学生の皆さんに参加賞をいただき、各校にお届けしました。お世話になりました。

ハリケーン、カトリーナの被害者に対して部会では募金活動を行いました。1回目は、一般の方から2回目は、教委員会の多大なご協力を得て、小・中・高校生、児童会、生徒会、先生方、保護者の方々から2268.95ドル(267,506円)の募金をいただきました。早速タスカルーサ姉妹都市委員会へ送金しましたところ、同委員会から、心よりのお礼状が届きましたのでお知らせします。

来年度は、習志野市とタスカルーサ市が姉妹都市提携をして20年目にあたります。数多くの記念の交流活動を企画予定していますので皆様にご参加いただき外からと内からの豊かな国際交流を体験していただきたいと願っております。

(今井 洋子)

## 皆さんのご協力で充実した交流が出来ました。交流部会

交流部会では、5月の総会後、会員相互の親睦会を開催し、67名の方々に参加をいただきました。平素会員は、学習日や活動日が異なるため、顔を合わせる機会があまりありませんが、当日は多くの参加を得て楽しい雰囲気の中、軽食を取りながら親睦を深めました。

10月には、香澄公園にて、恒例のバーベキュー大会を実施しました。前日まで降り続いた雨も今日は、晴れ上がり、100名を超える会員やご家族を迎えて野外で焼肉や焼きそばを楽しみながら、和やかに交流を深めました。

11月にはミニハイクチームとの合同による横浜方面日帰りバス研修旅行を実施、午前は景色の素晴らしい三渓園や山下公園を見学、中華街で美味しい昼食をとった後、最後に外人墓地を見学、海側から見た横浜の街も素晴らしい景観で多くの参加者の方々に喜んでいただきました。

新年に入り1月21日、恒例の餅つき大会を菊田公民館で行ないました。当日は、思わぬ大雪に見舞われ会員の方々の参加を心配しましたが、お陰さまで約80名(外国の方20名)の方が参加し、各々が仕事を分担して頑張ってくれました。

杵を振り上げて頑張る人、つきたてのお餅を丸めたり、雑煮や汁粉の準備する人、皆さんのご協力により会は順調に推移、その後はみんなで、好きなものを食べながら楽しく新年を祝っていただきました。今後も会員の方々が、楽しく交流出来るよう努力する所存ですので皆様のご協力よろしくお願ひいたします。

(長安 信明)

## 温かいご支援に感謝します。

### 広報部会

私たち広報部会では、習志野市の皆さんに市の公共機関を通して国際理解、国際交流の推進を図るための一つの媒介として、広報誌スクウェアを作成しています。お陰さまで今回73号を発行することが出来ました。これまで一度も欠番を出すことなくくることができましたのも皆様の温かいご支援があったからと感謝いたしております。

特に今年度は、ドイツ駐日大使をはじめ、ボビー・バレンタイン監督(千葉ロッテマリーンズ球団)のご理解、ご協力がありましたこと大変嬉しく思います。それに加え、モーツアルトイヤーに先駆けて皆さんに情報を提供出来ました。

私たち広報部員は、10名のメンバーで構成し、一人ひとりの力を結集して情熱と活力にあふれています。来年度のテーマも今年度同様“スポーツと音楽”です。私たちと一緒に活動をしたい方、お待ちしています。(沼澤 佳子)

## 文化を通して楽しい交流を。

### 文化部会

文化部会では、各国の文化の理解や日本の文化を伝えることにより、親善を深めていくことを目的に活動して参りました。

「世界の料理教室」は、日本、インドネシア、ルーマニア、イタリアのよき講師陣に恵まれ、好評のうちに今年も4回実施しました。講師の流暢な日本語での説明、英語での質問等、まさに文化の交流が行われました。

講演会では、異文化に対して深い知識と理解をお持ちの方を講師にお招きし、お話をいただいています。本年は、JICAシニアボランティアとして、メキシコで放送関係の指導でご活躍された田辺光宏氏に日本とメキシコの交流について講演していただきました。

文化セミナーは、2回実施しています。1回目は、日本の琴、笛の演奏、ボリビアの楽器チャランガの演奏を鑑賞しました。その後、琴の体験演奏もあり、外国の人にとって楽しい経験だったようです。

2回目は、**きぶん** 気分を変えて、東京江戸博物館と清澄公園を訪れ、日本の歴史や当時の人々の暮らしなどについて触れてみよう計画しています。(3月25日開催予定)

今後も文化部では、各国の色々な文化に接し、相互理解を深めるための機会を提供出来たらと思っています。皆様のご参加をお待ちしています。

(志知 美智子)

### 言葉の学習を通して交流を。

### 語学研修部会

当部会では、しばらく中断していた語学講座を今年度再開しました。

韓国語と中国語講座です。韓国語は、未だ衰えを見せない韓流ブームによる学習意欲への対応として、一方中国語は2008年開催予定の北京五輪に向けて日常会話から始めようというねらいです。

「広報習志野」や当協会の広報誌「スクウェア」や「RAIN BOW」で募集したところ、定員を大幅に上回る数の応募があり、その反響の大きさに驚きました。しかたなく抽選をさせていただきましたが、ご希望に添えない方が多数出で、心苦しく思っています。

講師は、当協会の方にお願いしました。お二人とも語学指導とは違う分野のスペシャリストですが、元々お持ちの指導力に加え、毎回熱心に授業プランをたててわかりやすい講義を実践して下さいます。学習を重ねるごとに受講生同士の親密感も増して、茶話会で楽しいひと時も過ごしました。(スクウェア72号に体験談を掲載)

来年度は、今年度抽選にもれた方からの強い希望もあり、ほぼ同じ内容の語学講座の開催する予定です。ご近所の国々のことばを話してみたい方、文化にふれて見たい方、語学学校とは一味違うN.I.A.の講座を是非お試し下さい。お待ちしています。

(勝又 陽子)

### 日本語の学習のお手伝いを。

### 日本語学習部会

今年度も習志野市とその周辺に住む外国人や市内に在学中の外国人の児童生徒が、私達と共に楽しく過ごせるよう、ボランティアで日本語学習のお手伝いをしてきました。ここでの学習は、生活に密着した日常会話を中心に読み書き、日本の文化、社会事情等も出来るだけ盛り込むように努めています。現在学習者は、30カ国130名あまり、ボランティア講師も90名を超えていました。

この部会では、この他にも「七夕まつり」をはじめ折り紙教室、ちぎり絵教室、書道教室、生け花教室等を催したり、N.I.A.サンバチームの中心になって「習志野きらっとまつり」にも参加してきました。また学習者と講師間の親睦を図るため新年茶話会も行ないました。

また講師の見識を高めるために、今年度は2回にわたって研修会を開きましたが、大変に勉強になりました。

今年度から取り組んだ活動として「日本語ボランティア講師養成講座」があります。この活動は、以前他の部で実施していましたが、それを引き継ぎ今年度も9月から3ヶ

月にわたって実施しました。1月からは、25名が新しい講師として仲間入りし、活躍しています。

また今年度から部会の日常活動がより良く運ぶために「世話人会」を月1回開催しています。

3月8日には、外国人学習者が、学習した日本語を使って自分のことや国のこと等を発表する「スピーチ茶話会」が予定されています。

(松尾 友一)

### わがもの 若者が企画した楽しい活動が一杯。

### 青少年部会

今年度は、定例会を月2回開催し、活動の充実をめざしてきました。

行事では、5月に市役所前グランドで、スポーツ大会を開催しました。誰でも参加できるキックベースボールや長縄跳び等の種目をみんなで楽しく行いました。

7月は、パークゴルフと花火大会を大久保中央公園で開催しました。この日は、震度5弱の地震があり、心配していましたが、何事もなく無事終了しました。

10月には、バス研修旅行を行いました。今年度は、千葉県のマザー牧場でしたが、5カ国の外国人(11人)も参加し、動物と一緒に遊んだり、ジンギスカンを食べたりと楽しいひと時を過ごしました。素敵な国際親善が、行われ充実した1日でした。

12月は恒例のクリスマスパーティーを開催しました。今年も色々なゲームをグループごとに競ったりして、楽しい交流が出来ました。

来年も充実した国際交流をするために、多くの会員の方に参加していただける企画を立てていきたいと考えています。皆さんの参加をお待ちしています。

(大野 智弘)

### 皆様の参加をお待ちしております。通訳・ホームステイ部会

今年度は、毎週月曜日4:00~5:00まで「チャットde ALT」を開催しました。この会は、習志野市内の小中学校で活躍されているALTの方々を毎回2名お招きし、英語で自由に楽しくお話をする会です。その日の参加者によって話題はいろいろ。

「英語は話したいけど、うまくしゃべれないで…」と思っている人、大歓迎です。一度参加してみませんか。

タスカルーサ市関係の通訳・ホームステイの活動は、今年度公式訪問がなく、ありませんでした。しかし、市内在住外国人の方や関係機関からの通訳要請は、例年どおりあり、それぞれに対応をさせていただきました。また、1月には、台湾から5名の幼稚園の先生方が、市内の公立幼稚園及び保育所に研修にみました。習志野市役所子ども部と協力し、通訳の協力をしました。

来年度(2006年度)は、姉妹都市提携20周年にあたり、タスカルーサ市から2回にわたり学生や市民の方々がいらっしゃる予定です。ホームステイや通訳で皆様にご協力をいただく機会が多くなると思いますが、その際はよろしくお願いいたします。

(事務局)



Alabamians have contributed a great deal to American culture, traditional and modern, to art and literature and life. Let me introduce a few of our local treasures.

Figures in sports who will be familiar to many include the baseball hall-of-famers Willie Mays, from Westfield, and Hank Aaron, from Mobile. About the latter it was once said, "Trying to throw a fastball by Henry Aaron is like trying to sneak a sunrise past a rooster." Athlete and civic leader Jesse Owens, who was born in Oakville, excelled at track, and won four gold medals in the 1936 Summer Olympics in Berlin.

In music, some of the best known musicians in their various fields had their roots in Alabama. Lionel Hampton, born in Louisville, played with the Benny Goodman Quartet before he left to form the only black-owned orchestra in the 1940s. Nat "King" Cole came from Birmingham, but grew up in Chicago, studying piano with his mother and playing the organ and singing in his father's church. He is remembered for his jazz piano as well as his vocals, such as It's only a paper moon and Mona Lisa.

Country singer Hank Williams, Sr., was born in Butler County, Alabama, and learned to play guitar from a street blues singer. His top selling singles include Jambalaya and Cold, Cold Heart. Dinah Washington, from Tuscaloosa, has been called the Queen of Harlem Blues. Contemporary with Lionel Hampton, whose band she joined, and Hank Williams, whose song she sang, she won a Grammy Award for Best Rhythm and Blues Performance with What a Diff'rence a Day Makes. Another Lionel will serve as a book end to this abbreviated section on musicians from Alabama. Lionel Richie, born in Tuskegee, was the lead singer of the Commodores, the most popular soul group of the 70s. He wrote Lady for Kenny Rogers, collaborated with Michael Jackson on the charity single We Are The World by USA For Africa, and sang a duet with Diana Ross on the theme song for the film Endless Love.

This introduction doesn't begin to touch on the educators, scientists, authors and civic leaders whose names have inspired generations. To learn more about outstanding individuals from our state, visit the following web sites.

Famous Alabamians <http://www.50states.com/bio/alabama.htm>

African-American Alabama History <http://www.archives.state.al.us/activity/actvty13.html>

Or better yet, visit Alabama! Check out the homes and the roots of these cultural legacies. There is much to enjoy, and much about the south to learn!



古い時代から現代に至るまでのアメリカの文化、芸術、文学、生活様式にアラバマの人々は大きく貢献してきました。

スポーツの世界では、野球殿堂入りしているウィリー・メイズ、ハank・アーロンが有名です。またオーラクビル出身で民団体の指導者としても活躍したジェシー・オーエンスは1936年のベルリン夏季五輪で4個の金メダルを獲得しています。

音楽の世界では、様々な分野においてアラバマにルーツを持つ、最もよく知られたミュージシャンの活躍が知られています。1940年代に、唯一黒人のみで形成されたオーケストラの所有者であったライオネル・ハンプトンはルイビル生まれで、ベニー・グッドマン・カルテットと共に演奏していたこともあります。ジャズボーカル、ピアニストとして有名なナット・キング・コールはシカゴ育ちですが、生まれはバーミングハムです。母からピアノを習い、父の教会ではオルガンを演奏しながら歌って育ちました。ストリートブルースシンガーからギターを習ったカントリー歌手のハank・ウイリアムズはバトラー郡出身、ハーレムブルースの女王と呼ばれたダイナ・ワシントンはタスカルーサ出身です。70年代の最もポピュラーなソウルグループ、「コモドアーズ」のリードシンガーだったライオネル・リッチャーはタスキギーに生まれました。

ここでは紹介しきれないアラバマ州出身の著名人については上記サイトをご覧ください。

また、アラバマを訪問し、アラバマの文化遺産のルーツを調べてみてください。南部に関する多くのことを学べて、楽しいことがいっぱいです。

## 会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

がんば  
頑張って、勉強します。



シャーラヤ イリーナ（ロシア出身）

みなさま、はじめまして。私は、イリーナです。

さくねん  
昨年の9月にロシアから日本にきました。ロシアに住んでいた時、少し日本語を勉強していました。その後、日本に来てすぐにN.I.A.で日本語の勉強をはじめました。

まだ来日して4ヶ月ですので、日本語を完全に理解できません。しかし、毎週、石塚千子先生に教えてもらい、だんだん日本語が理解できるようになりました。これからもがんばって勉強を続けていきますのでよろしくお願ひいたします。

♪♪想えば遠くへ来たもんだ。



わかまつ しょうじ  
若松 昭二

外国に旅して到着空港を一步出るといつも私の心をよぎるのがこの言葉であると同時に期待感とまた若干の不安感が入り混じる時もあります。旅は非日常的な世界に入りこむものとよく言われますが、海外旅行はまさしくその通りではないかと思います。

私は6～7年ほど前、定年退職後の楽しみの一つとして海外旅行に行こうと思い立ちNHKの教育テレビで英会話の勉強を始めました。何とかたどたどしい旅行用の英会話が出来たころ2000年の12月に初のニュージーランド一人旅に出発しました。その後にイギリスへ2回、台湾、ニューヨークへと4年ほどの間で行き定年前の願望がある程度果たせたと思っています。

また毎週月曜日、国際交流協会（N.I.A.）の事務所で英語指導助手（ALT）との懇談会に参加し様々な交流が生まれました。私の国際交流のきっかけは海外旅行によるものですが、これからも健康を維持し海外旅行や外国人との交流を続けていきたいと思います。

Hello !



ミッセル トレイシー クラーク（カナダ出身）

My name is Michelle and I'm from Victoria, Canada. I grew up near the world famous Butchart Gardens and even worked there for one summer while I was in University. I studied Linguistics at the University of Victoria, and, although I had vowed never to teach ESL, I decided to come to Japan to teach English. I had taken four years of Japanese in High School, but that was over 12 years ago so when I got off the plane the only Japanese I could remember was 'jitensha' and 'ikimashou'. Japan has more concrete than what I am used to but I used to check for bears before leaving my residence when I lived on the Sunshine Coast in BC. Japan has more sunshine than I have seen in my life, I am used to rain and cloud so this winter has been wonderful.

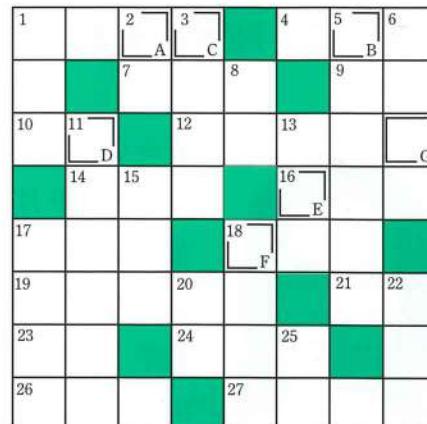
# Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.73/プレゼント付！

## 〈Across〉

- To suspend
- Fellow of the Institute of Chemistry
- Fellow of the Entomological Society
- New Hampshire
- Southeast
- A capital city of the Nigeria.
- Daughter of the American Revolution
- The colour of fresh blood.
- The gaseous mixture surrounding the earth.
- Incorporated
- , stood, stood.
- Television
- I thought you wanted to have this, --- I bought it for you.
- Committee for Economic Development
- National Rifle Association
- Part of the earth's surface

## 〈Down〉

- A day --- twenty-four hours.
- Norman French
- Set of toothed wheels working together in a machine.
- To force in.
- One of the republican country situated in North Africa.
- South Britain
- Special article or discussion of news in a newspaper, etc.,
- Vase, usually with the stem and base.
- Associate of the Royal Academy
- Association
- Thought: Picture in the mind.
- North Carolina
- By the way of.
- Doctor



〈出題者〉 御園生 韶 (編集部)

## 〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A～Gの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで4月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。

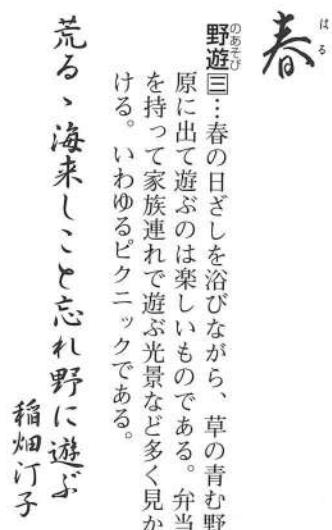
たくさんのご応募お待ちしています。

## 姉妹都市交流活動、「市民訪問団」に参加しませんか。

今年は、習志野市とアメリカ合衆国アラバマ州タスカルーサ市が、姉妹都市提携を結んで20年目にあたります。そこで2006年度は、両市の交流活動が活発に展開される予定です。6月には、タスカルーサ市から高校生が、7月には習志野市から中・高校生が相互訪問をします。習志野市の中・高校生は、タスカルーサ市の市民と交流を深めるだけでなく、アラバマ大学で英語の語学研修をします。また10月は、タスカルーサ市で、11月は習志野市でそれぞれ公式訪問団を迎えて姉妹都市20周年の式典が行われます。習志野市国際交流協会では、この記念すべき20周年にあわせ「市民訪問団」を結成することになりました。現在実行委員会で、具体的な内容の検討に入っていますが、現段階では、10月18日出発し、19日の正式晩餐会や21日に行われる記念式典に参加する予定です。またその前後には、タスカルーサ市の観光及び他市への観光も考えています。詳細が決まり次第、会員、市民の皆様に本誌及び習志野市広報で「市民訪問団募集」のお知らせを致します。皆様のご参加をお待ちしています。

(姉妹都市交流部会・実行委員会)

## 俳句



## 編集後記

\* 昨年は千葉ロッテマリーンズが日本一に輝き、地元ファンを大いに湧かせた。さて、今年は日本全国のファンを興奮させるサッカーW杯ドイツ大会が6月に開催される。何としても予選通過を今から皆で応援しましょう。本年も宜しく。(K.M.)

\* It makes me feel sad to hear about an increasing number of incidents in Japan where construction companies and developers deliberately deceive buyers of condominiums in blatant disregard of regulations and common sense, fully aware that they put the lives of people at risk. It seems to prove that we cannot easily trust professionals we need to rely on, in Japan just as much as anywhere else. (R.W.K.)

\* アフリカ大陸は、未知の可能性を秘めており、21世紀はアフリカの世紀と主張する論者もいる。ナイジェリアの経済発展は著しいが、アフリカ諸国民に対して偏見を抱いている日本人は多い。今回の特集によってアフリカに対する認識を改めていただけることを願う。(T.K.)

## 前回の解答

〈解答〉 AUSTRIA

W	I	E	N		R	C	S
A		C	E	D		A	L
G	O		A	O	R	T	A
	B	I	T		A	N	T
O	T	C		I	P	A	
M	U	S	I	C		P	S
I	S		G	O	D		A
T	E	A		N	E	E	D

## 当選者

阿部 紘之さん 小林 俊介さん  
吉田 光江さん 城島 直純さん  
河原崎陽介さん

正解者は12名でした。

## N.I.A.スクウェア・第73号

発行2006年3月1日/発行責任者・山田大三

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・沼澤 佳子

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www1.seaple.ne.jp/nia>

<Eメール> nia@seaple.ne.jp